



京都、虎森石行御待請白合



望月の夕も梅の影映る
あしを影として露の粒を
とちらうと吹くもなほ其のうを
月影をく梅の夜明るを
梅の香の戸に吹くや宵の月
夜を影として明るを
松 冬 鼓
鹿 声
志 初
光 後
浜 彦

各前文略す

海山の風急ありまのりむ
月をさきへ流るるを
一とんり花よこくけり
主 一
鹿 彦
凡

去年の秋月首途しと今月の如月影を
連元の時文とて今月のはるを
先頭影もさきへ流るるを

柳石

梅の時の香を
さきへ流るるを

東風坊

春の影を
鬼や一里 柳

魚佛坊

天保十三年癸卯春興行



特別
A5
6651
13
早稲田大学図書館